第十六条第四号イの表を次のように改める。

| 応力の種類 | | | 耐震設計用許容応力 |
|---|---|---|---|
| 圧縮応力 | | | $\frac{2F_c}{3}$ |
| せん断応力 | $F_c \leqq 21$ | | $\frac{F_c}{15}$ |
| | $F_c > 21$ | | $0.98+\frac{F_c}{50}$ |
| 付着応力 | 丸鋼 | はりの上端 | 1.4 |
| | | はりの上端以外の位置 | 1.4 |
| | 異形鉄筋 | はりの上端 | $F_c \leqq 22.5$ | $\frac{2F_c}{15}$ |
| | | | $F_c > 22.5$ | $1.8+\frac{4F_c}{75}$ |
| | | はりの上端以外の位置 | $F_c \leqq 22.5$ | $\frac{F_c}{5}$ |
| | | | $F_c > 22.5$ | $2.7+\frac{2F_c}{25}$ |

備考　この表において、$F_c$はコンクリートの二十八日設計基準強度（単位　ニュートン毎平方ミリメートル）を表すものとする。

第十六条第四号ロの表中「

| | | |
|---|---|---|
| せん断補強に用いる場合 | | F（二九四を超える場合は、二九四とする。） |

」を

「

| | | |
|---|---|---|
| せん断補強に用いる場合 | 丸鋼 | F（二九五を超える場合は、二九五とする。） |
| | 異形鉄筋 | F（三九〇を超える場合は、三九〇とする。） |

」に、同号ハの表(a)中「(1)　$\frac{2}{3}\left(\alpha CN_c+\beta\gamma_1 BN_r+\frac{1}{2}\gamma_2 D_f N_q\right)$」を「(1)　$\frac{2}{3}\left(i_c\alpha CN_c+i_r\beta\gamma_1 BN_r+i_q\gamma_2 D_f N_q\right)$」に改め、同表備考を次のように改める。

備考　この表において$i_c$、$i_r$、$i_q$、$\alpha$、$\beta$、C、B、$N_c$、$N_r$、$N_q$、$\gamma_1$、$\gamma_2$、$D_f$、$q_t$及びN′は、それぞれ次の値を表すものとする。

$i_c$、$i_r$及び$i_q$　基礎に作用する荷重の鉛直方向に対する傾斜角に応じて次の算式によつて計算した数値

$$i_c=i_q=\left(1-\frac{\theta}{90}\right)^2$$

$$i_r=\left(1-\frac{\theta}{\phi}\right)^2$$

これらの算式において、$\theta$及び$\phi$は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$\theta$　基礎に作用する荷重の鉛直方向に対する傾斜角（$\theta$が$\phi$を超える場合は、$\phi$とする。）（単位　度）

$\phi$　地盤の特性によつて求めた内部摩擦角（単位　度）

$\alpha$及び$\beta$　それぞれ基礎荷重面の形状に応じ、次の表(b)に掲げる係数

表(b)

| 係数 ＼ 基礎荷重面の形状 | 円形 | 円形以外の形状 |
|---|---|---|
| $\alpha$ | 1.2 | $1.0+0.2\frac{B}{L}$ |
| $\beta$ | 0.3 | $0.5-0.2\frac{B}{L}$ |

備考　この表においてL及びBは、それぞれ次の値を表すものとする。

L　基礎荷重面の長辺又は長径（単位　メートル）

B　基礎荷重面の短辺又は短径（単位　メートル）

C　基礎荷重面下にある地盤の粘着力（単位　キロニュートン毎平方メートル）

B　表(b)に規定する値（単位　メートル）

$N_c$、$N_r$及び$N_q$　支持力係数であつて、それぞれ地盤の内部摩擦角に応じ、次の表(c)に掲げる値

表(c)

| 内部摩擦角 ＼ 支持力係数 | $N_c$ | $N_r$ | $N_q$ |
|---|---|---|---|
| ○度 | 五・一 | 〇 | 一・〇 |
| 五度 | 六・五 | 〇・一 | 一・六 |
| 一〇度 | 八・三 | 〇・四 | 二・五 |
| 一五度 | 一一・〇 | 一・一 | 三・九 |
| 二〇度 | 一四・八 | 二・九 | 六・四 |
| 二五度 | 二〇・七 | 六・八 | 一〇・七 |
| 二八度 | 二五・八 | 一一・二 | 一四・七 |
| 三二度 | 三五・五 | 二〇・〇 | 二三・二 |
| 三六度 | 五〇・六 | 四四・四 | 三七・八 |
| 四〇度以上 | 七五・三 | 九三・七 | 六四・三 |

備考　この表に掲げる内部摩擦角以外の内部摩擦角に応じた$N_c$、$N_r$及び$N_q$は、表に掲げる数値をそれぞれ直線的に補間した数値とする。

$\gamma_1$　基礎荷重面下にある地盤の単位体積重量（単位　キロニュートン毎立方メートル）

$\gamma_2$　基礎荷重面より上方にある地盤の平均単位体積重量（単位　キロニュートン毎立方メートル）

$D_f$　基礎に近接した最低地盤面から基礎荷重面までの深さ（単位　メートル）

$q_t$　平板載荷試験による降伏荷重の二分の一の値又は極限応力の三分の一の値のうちいずれか小なるもの（単位　キロニュートン毎平方メートル）

N′　基礎荷重面下の地盤の種類に応じ、次の表(d)に掲げる係数

表(d)

| 地盤の種類 ＼ 係数 | N′ |
|---|---|
| 砂質地盤のうち密実なもの | 十二 |
| 砂質地盤（密実なものを除く。） | 六 |
| 粘土質地盤 | 三 |